

公益社団法人
いのちのドア



活動報告書
2023
ACTIVITY REPORT

はじめに

2023年度は妊産婦等生活援助事業が法定事業として施行される準備の年でもあり、そのための動きも多く、また緊張の伴う場面もありましたが、日々の相談業務や入居の方々へのかかわりを第一優先をとし、そのためにスタッフの良好な関係を保つことを心がけた2023年度でした。

相談件数も増え続けており、開所からでは6万件近い相談に応じてきました。最近では30~60件/日の相談を受けております。

その中でも妊娠中期以降の未受診の方は3.5人/月でした。

また、未受診にもかかわらず陣痛が起こっているという相談は8人、同じく未受診にもかかわらず生まれてしまったという相談は4人でした。緊急度の高いこれら二つのケースを合わせると、例年の倍以上の数字となり、月に1人ペースで緊迫したいのちと向き合う相談に対応してきましたことになります。今のところすべてのケースにおいて母子のいのちを守ってきました。

一方、新生児の殺害遺棄事件は後を絶たず、多くの事件の報道を耳にした2023年度でした。このような事件があるたびに、小さないのちのドアからの情報発信を強化しております。

マタニティホームmusubiへの入居者は2023年度は19人でした。心を閉ざした状態で入所される方や心の傷が癒えない辛さを抱えておられる方も多く、心理面談や自立計画の情報を相談部門の中では共有し、また全体としても方針を一致させて業務にあたっております。また病院や行政との連携もこれまで同様、大切にしながら一人一人にあった自立を支えてきました。

兵庫県外や兵庫県の委託の妊娠週数以外にも助けが必要ないのちがあり、独自事業としてかかわってきましたが、今後、この事業が全国に広まるまで、先駆けて始めた者としての役割として、助けが必要などんな命にもしっかりと向き合っていくつもりでおります。

2024年度からは法定化される事業もありますが、公的な委託費は全体の約66%となっており、2023年度で終了する民間の助成金もあるため引き続き皆様にお支えいただきたく宜しくお願い申し上げます。

公益社団法人小さないのちのドア

代表理事 永原郁子

沿革・2023年小さないのちのドアの歩み

— 小さないのちのドア設立～2024年3月31日 —

2017/1 ----- 行き場のない女性の居場所づくりのための「一般社団法人マタニティホーム・マナ」設立

2017/12 ----- ベビークラッペ（ドイツ版こうのとりゆりかご）発症のドイツへ視察。ポストではなくドア（面談型）の必要性を確信し準備開始

2018/9 ----- 一般社団法人小さないのちのドアに名称変更
24時間体制の相談事業開始

2020/9 ----- 兵庫県より悩みや不安を抱える若年妊婦等支援事業受託・開始

2020/12 ----- 行き場がなく、頼る人もいない妊産婦のための生活支援施設
「マタニティホームMusubi」開設・受け入れ開始

2021/4 ----- 兵庫県より予期せぬ妊娠SOS相談事業受託・開始

2021/9 ----- 「小さないのちのドアをあけて」出版

2022/2 ----- 一般社団法人から公益社団法人へ移行

2022/6 ----- 兵庫県より特定妊婦等居場所確保
自立支援事業受託・開始

2023/6 ----- 増室のためのリフォーム完了・ユニット別支援開始

2023/9 ----- 日本生活指導学会発表

2023/10 ----- 5周年記念イベント開催
全国妊娠SOSネットワーク共催妊娠SOS研修開催

2023/11 ----- 日本子ども虐待防止学会発表

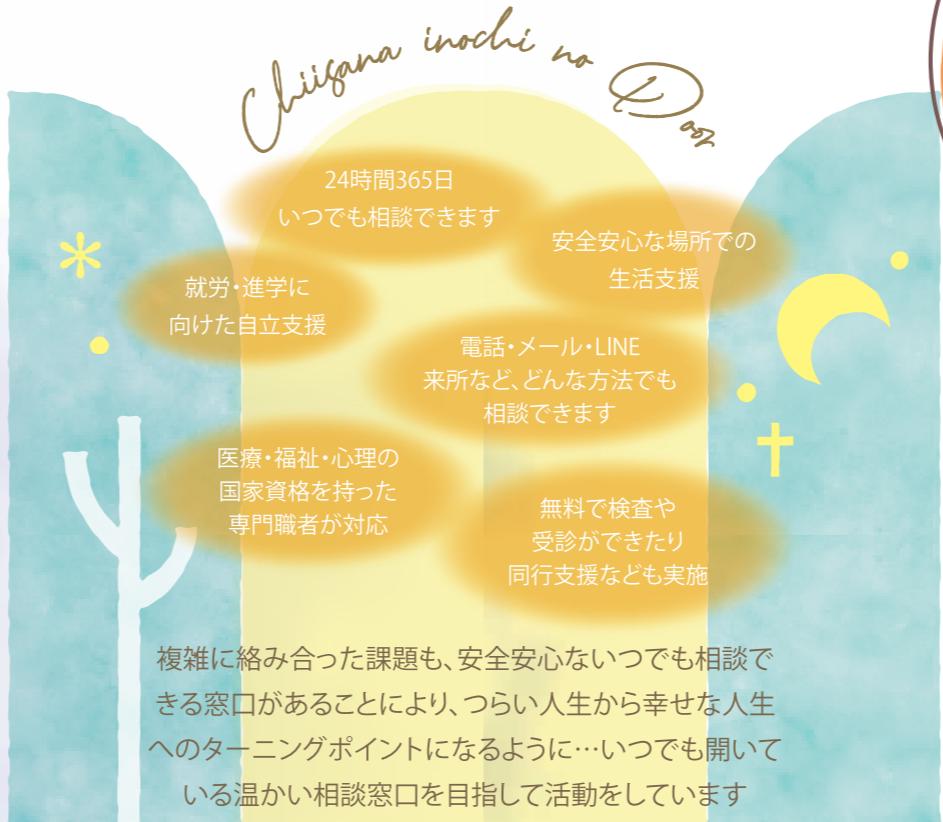
2023/12 ----- アフターフォロー支援として
卒業生ホームパーティー実施

2024/2 ----- トラウマインフォームドケア研修開催
新宿歌舞伎町視察



小さなのちのドアの活動

これまでの活動の中で、社会的な課題を複雑かつ重層的に抱える妊産婦さんたちに出会ってきました。予期せぬ妊娠によって「孤立」してしまう現状とともに、予期せぬ妊娠を通して繋がることができ、この機会を人生のターニングポイントとして幸せに歩んでいけるように、寄り添い伴走していきたいと、相談から自立に至るまで一貫した支援活動を行っています。温かな社会の実現を目指して、小さなのちのドアの働きをさらに広く、深く、温かなものにし、一人でも多くの妊産婦さんや小さなのちに繋がっていきます。



- 兵庫県からの委託事業
20年9月～若年妊婦等支援事業
21年4月～妊娠SOS相談事業
- SNSの強化情報発信・DM相談)
- 連携会議の実施
- ケースカンファレンス・会議の強化
- DV虐待関係一時保護委託妊婦)

相談支援 同行支援 連携調整

P.6

予防 普及啓発

P.9

生活支援 自立支援

P.8

政策 提言

P.12

- H2OサンタNPOフェスティバル参加
- 様々なメディアへの掲載・特集放送
- 研修・セミナーの実施
- アウトリーチチラシ配布
- 女の子の居場所カフェの開催
- 性教育部門いのち語り隊の活動

- 加藤鮎子大臣の視察
- 国会議員の先生方の勉強会・提言
- こども家庭庁ヒヤリング・視察

活動紹介① 相談支援

2018年開所当初から独自事業として行ってきた相談事業ですが、21年4月より兵庫県と神戸市から予期せぬ妊娠SOS相談事業の委託を受け、年々広がりを見せています。SNSでの情報発信に力を入れたこともあり、昨年以上に2023年度も多くの相談をお受けいたしました。2023年度の特徴としては電話相談が増えたこと、また未受診のまま陣痛発来している状況や自宅等で出産された後の相談が12人もあり、緊急対応が必要なケースが多かったことがあります。すべてのいのちが守られることに安堵しておりますが、一步間違えば新生児遺棄につながりかねない相談もあります。できるだけ早く安全に過ごせるように、また病院や行政とも速やかに連携しながらすべてのいのちが守られ、尊ばれる社会につながるように、さらに相談窓口の強化を図っていきたいと思います。



居場所の提供・事業の周知

さらに相談しやすい窓口を目指して、予期せぬ妊娠で悩む女性はもちろん、予備軍でもある女性たちへの働きかけ。性教育講演時に兵庫県内の中学校・高校・薬局へのSOSチラシ・カード配布。元町駅周辺のレンタルスペースを貸し切り、居場所カフェ・出張相談所を実施。

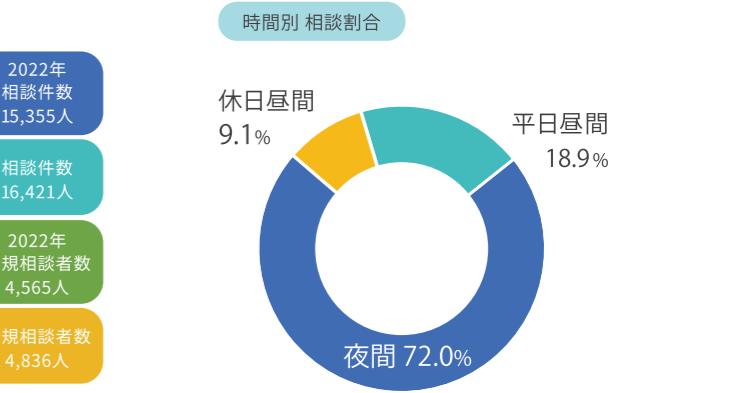
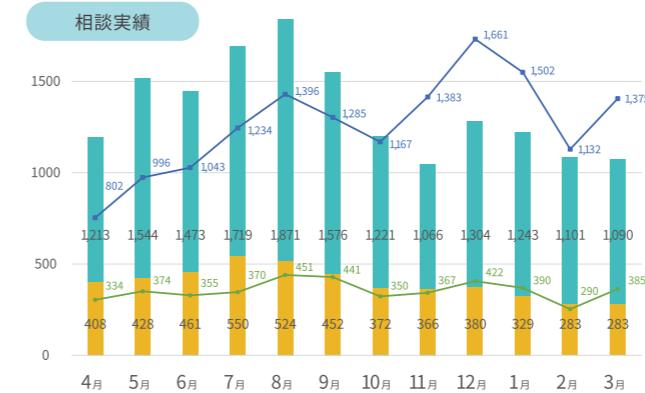
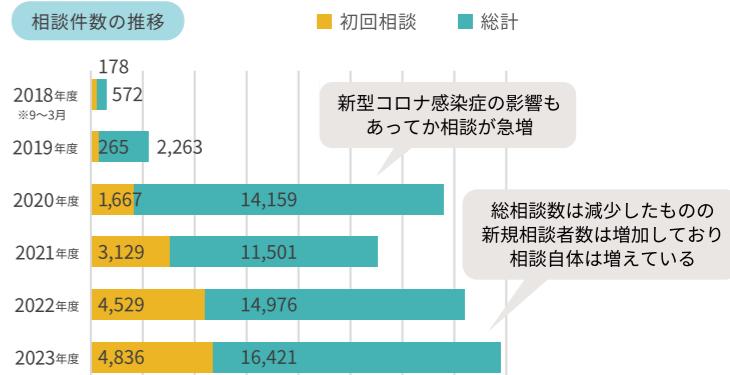
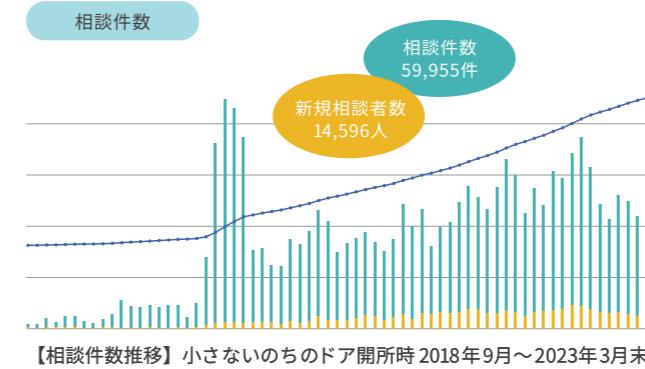


SNSでの発信を強化

X、Instagram、Facebook、LINEを活用して情報発信・相談を実施。投稿・更新頻度を増やし、相談窓口について、またDMでの相談を受け付けることで相談への入口がさらに広がった。

相談支援体制の強化・スタッフ育成

相談支援体制強化のためのケースカンファレンスや事例検討、研修会を実施。23年度はメンタルヘルスに重点を置き、研修会を定期開催。また連携強化のため、ケースカンファレンスやSOS研修を実施。



活動紹介② 同行支援・連携調整



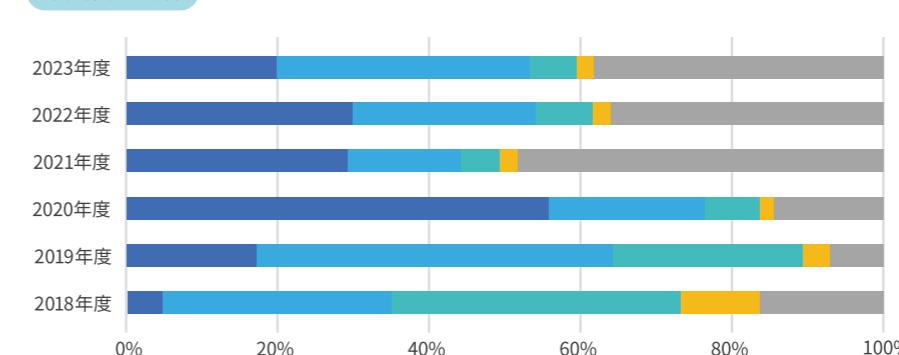
24時間365日
来訪可能なドア
相談室

小さなのちのドアの目指す社会

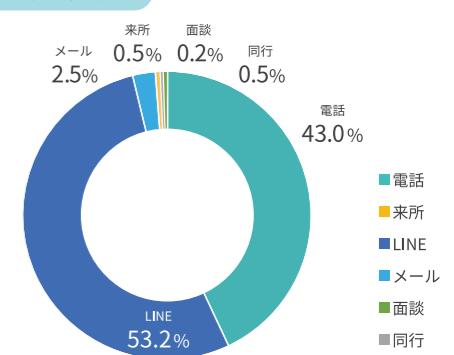
- * 結婚に至らない妊娠でも女性と胎児の尊厳が守られる社会に！
- * 産んだ後、赤ちゃんを託すこと（特別養子縁組）が認められる社会に！
- * 最も小さいのちである胎児や赤ちゃんが最も大切にされる豊かな社会に！

妊娠出産育児には多くの手続きや申請が必要になります。またそれが抱える課題の中には法的な支援や福祉の支援など様々な支援が必要になることもあります。社会の中にはたくさんのいのちや生活を守る支援がありますから、上手に活用していくことができるよう申請の手続きや、関係機関とのつながりが円滑にいくように、同行支援や連携調整を大切に実施しています。事業を続けていく中で少しづつ周知も広がり、連携も以前に比べ格段にスムーズに連携できるようになっています。できるだけ顔と顔の見える関係の中で、対象者の方が地域の中で幸せに生きていけるように、関係機関が同じ方向を向いてそれぞれの役割を認識しつつ、分担してサポートしていけたらと思っています。これからも温かな支援の輪、連携の輪を広げながら、対象者の方々が安心して生活していくように整えていけたらと思います。

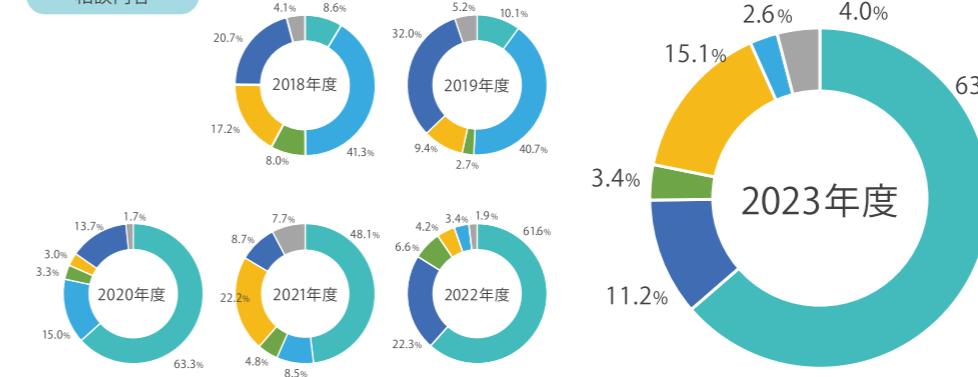
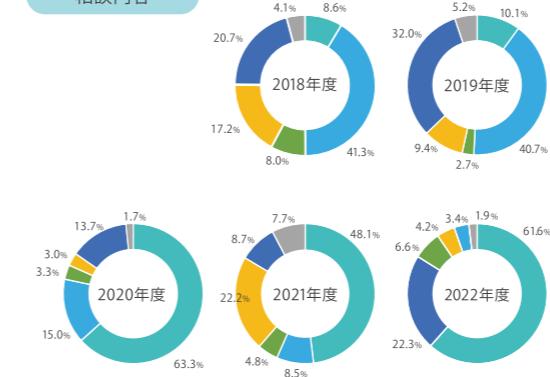
年代別 相談割合



相談経路



相談内容



妊娠中期以降未受診	45人 (3.75人/月)
特別養子縁組	4人 (1人/3か月)
陣痛が起こってから	8人 (1人/1.5か月)
未受診・出産直後	4人 (1人/3か月)
DV	46人 (3.8人/月)
精神疾患	140人 (11.7人/月)
被虐待歴	29人 (2.42人/月)
性被害	41人 (3.42人/月)

活動紹介③ 生活支援・自立支援

2020年12月から始まったマタニティホームMusubiですが、開所から3年半、1日も途切れることなく、行き場のない妊婦さんや産婦さんの居場所として活用されています。春にはリフォームも完了し、9部屋に増築され、より多くの女性を受け入れられるようになりました。また妊婦さんや養子縁組された方のユニットと、養育される母子のユニットに分けたことで、妊産婦さんたちの生活や心理精神面での安定が図りやすくなったり、スタッフも動きやすくなったりすることで、段階に応じたよりきめ細やかな支援が行えるようになりました。ただ部屋数が増えたことで利用者も増えていることもあり、温かな支援を行うために、スタッフの役割分担や専門性を生かした支援が大切になってきています。居場所がある、帰る場所があるということは、安定した人生の歩みを進めるためには大切なことです。女性の幸せのため、母子の幸せのために、温かな居場所をこれからも作っていきたいと思います。

生活支援施設 マタニティホーム Musubi

- ① 衣食住や入浴などの提供（無料）
 - <衣> リサイクルのマタニティウエアや新生児のための育児物品等の提供
 - <食> 3食提供（共有スペースで食事、部屋で食べる方もある）
 - <住> 居住スペース7部屋と待機室2部屋、ステップハウス4室
- ② 病院同行支援（産婦人科、精神科など）
- ③ 陣痛が始またら病院へ送迎。必要な物を届けたり、退院時のお迎え
- ④ 行政同行支援（健康保険、母子手帳、住民票、生活保護、児童手当）
- ⑤ 家族やパートナーとの調整（電話、話し合いの場を設定するなど）
- ⑥ お金が全くない人のための支援を考える（低所得者支援など）
- ⑦ 新生児の遺棄事件防止やDV対応のためのセキュリティーを完備



【医・居】
24時間365日いつでも
電話・来所・メール・LINEなど
どんな方法でも相談できます
助産師や保健師など専門職が対応しています
予期せぬ妊娠などで悩む女性に寄り添い
笑顔で歩んでいけるお手伝いをしています
Musubi Cafeなどを通して
女の子たちの居場所づくり

妊娠検査薬を使用した妊娠判定や
助産院と連携し診察することができます
初回受診～出産～産後をサポート
生と性の教育を実施

【食・職】
温かいバランスのとれた
食事や食卓の提供
自立に向けた
就労支援や学習支援
やりたい仕事や働き方を
一緒に考え、応援します

【住・充】
行き場のない妊産婦さんのための
安心安全に過ごせるマタニティホームを運営
行政や民間のサービスを活用し、自立までをサポート
センターの顧問弁護士や精神科医などもあり
様々な面からサポートできます
誰でも安心して相談できるように
匿名・無料で、相談できるようにしています
赤ちゃんが温かい家庭で育つこと
お母さんが幸せに生きていくこと
どちらも叶う生き方と一緒に探します

活動紹介④ 予防・普及啓発

待っているだけでは届かない人たちがいるため、昨年よりアウトリーチを開始しました。三宮や神戸などでのチラシ配布や居場所カフェを行い、若い女性たちが集まる場所での出張相談を行っています。2023年度は、いつも活用させていただいていたカフェだけではなく、エリアを広げて、アウトリーチを行いました。また冬には新宿歌舞伎町で夜間パトロールを行っている妊娠SOS新宿さんの活動に参加させてもらい、行き場を失っている女の子たちの現状を目の当たりにし、神戸の街でも女性たちを守るためにできる活動や、アプローチ方法を考える大切な機会をいただきました。一人でも多くの女性が守られ、幸せに歩めるように、お手伝いできる窓口を目指していきたいと思います。



阪急うめだ本店にて開催された、H2Oサンタフェスティバルに参加しました。子ども支援に取り組む社会貢献団体のブースで、活動内容を紹介させていただきました。



卒業パーティー
新しいスタートをきる
入居さんの卒業パーティー。マタニティホーム
のベランダで、BBQをしました。ホームからの
旅立ちを応援します。



活動紹介⑤ いのち語り隊

2023年度は113講演を行いました。これまでに比べ、中学校や高校等からの依頼が増えています。小さいのちのドアの活動から見える現状を取り入れた性教育は、リアルな社会の現状が伝わりやすく、性や人生に向き合う大切な時期を通過している生徒さんや学生さんに届きやすい性教育をお届けできるのが小さいのちのドアの強みです。早期からの性教育も重要ですが、加えて今必要といえる時期に性教育を実施することもより効果を得られやすく、自分からだや人生を考える大切な機会となっていることでしょう。2024年度からはZ世代に向けたプレコンセプションケアの委託を受けて高校生・大学生に向けた性教育を含めた健康教育を実施しています。ちいさないのちドアだからこそ伝えられるリアルなお話をこれからも届けてまいりたいと思います。



「いのちの教室」お申込み順次受付しております！

これからの時代を担う子どもたちが心身ともに健康に育つ環境づくりの一環として、是非「いのちの教室」をご利用ください。

経験豊富な助産師が年齢に応じた内容でいのちの大切さを伝えております。



- ◆幼稚園・保育園のお子様には、人形劇・抱っこ体験
- ◆小学生には講演の他に体験学習として
 - ・胎児の重さや大きさを実際に人形で体感
 - ・赤ちゃん人形を抱っこしていのちの尊さを体感
 - ・妊婦ジャケットで妊婦さんの体感
- など貴重な体験ができます。
- ◆大人向けには60分・90分で講演をご用意しております。

※講演料・講演内容については、隨時ご相談に応じますので「小さいのちのドア事務局」までお気軽にお問い合わせください。

5周年記念事業



2023年9月に5周年を迎え、2023年10月28日（土）に5周年記念イベントを開催しました。

オープニングは小さいのちのドアのテーマソングを提供してくださっているPostmanの演奏から始まり、一気に会場が温かな雰囲気となったところで、5年間の軌跡やご報告をさせていただきました。

その後は1周年記念事業の際にもお越しいただいた夜回り先生こと水谷修先生の熱い熱い思いが溢れたご講演により、会場全体が涙する時間でした。社会の現状を知ることは、社会が変わる第一歩につながっていきます。当日はたくさんの方にお越しいただき、直接温かな応援メッセージも頂き励ましと祝福を感じた一日でした。

5年という節目を迎えることができたのも、多くの方が支えてくださり、温かな眼差しを向けてくださったからだと感じています。こころより感謝申し上げます。



政策・提言

— 今年度もたくさんの先生方にお越しいただき、お話を聞いていただきました —



江東区長の木村やよい先生と
江東区の職員の方々が視察



大阪維新の会 大阪府議会の政調会に出席
経口円絶薬について



県議の北浜みどり先生來訪
今回は北浜先生のユーチューブの録画撮り



参議院議員石田昌弘先生との対談:ラジオの収録
「Femtechはじめようフェムテック」



内閣府特命担当大臣(こども家庭庁)の
加藤鮎子大臣に表敬訪問



内閣府特命担当大臣(こども家庭庁)の
加藤鮎子大臣 視察

今後の課題

事業内容

1. 思いがけない妊娠により途方に暮れる妊婦や出産後、育てられないと追い詰められた女性への助言、相談窓口「小さいのちのドア」の開設及び運営
2. 思いがけない妊娠により途方に暮れる妊婦や出産後、育てられないと追い詰められた女性の生活支援施設「マタニティホーム・Musubi」の開設及び運営
3. 妊産婦及び児を取り巻く現代の複雑な社会環境の現状とその対策を周知し、必要な際に適切な窓口へつなぐことができるよう講演、セミナーその他の方法により社会に広報啓発する事業
4. その他当法人の目的を達成するための必要な事業

2024年 事業計画

— 支援体制の充実・強化に向けて —

1. 相談支援・生活支援体制の強化・充実
2. 自立支援に向けたサポートと
アフターフォローリストの強化・充実
3. 兵庫県下の高等学校での性教育の実施
4. 実家のない妊産婦に実家がわりとなる
妊産婦ホストファミリーの実施
5. 居場所づくりの充実

ボランティア

マタニティホームを運営するなかで、とても大切なお働きを担ってくださっているのが、ボランティアメンバーの方々です。サポートいただいているお働きの一部を紹介いたします。

【お食事ボランティア】

栄養満点のお食事を通して、心も身体も満たされる、マタニティホームでの温かい時間を作ってくださいます。季節の食材を使った素敵なお弁当を届けてくださる方もいらっしゃいました。



【事務所ボランティア】

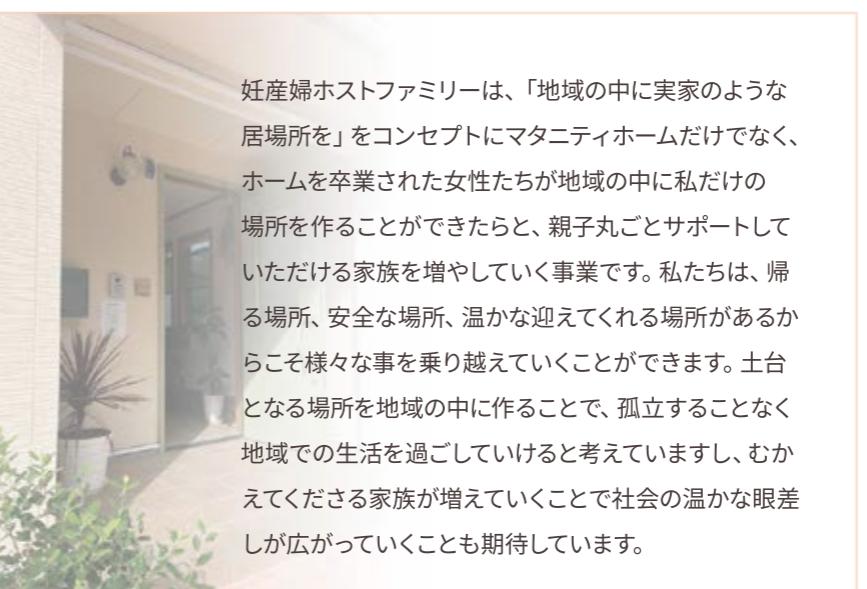
ニュースレターを発送するために、折り作業や封入の作業などをしてくださいました。

【アウトリーチボランティア】

小さいのちのドアの活動を広めるために、居場所カフェオープンの日を中心に、三宮でのチラシ配りをしてくださいました。ボランティアメンバーの方々には数えきれないほど助けて頂いており、どの場面においても、皆様の温かく優しいお心に感謝でいっぱいです。ボランティア研修は随時行っております。詳細につきましては、どうぞホームページをご覧ください。

小さいのちのドアのボランティアは随時募集しています。ホームでの働きや様子はInstagramにて更新中。チェックしてみてくださいね♪

妊産婦ホストファミリー



妊産婦ホストファミリーは、「地域の中に実家のような居場所を」をコンセプトにマタニティホームだけでなく、ホームを卒業された女性たちが地域の中に私だけの場所を作ることができたらと、親子丸ごとサポートしていただける家族を増やしていく事業です。私たちは、帰る場所、安全な場所、温かな迎えてくれる場所があるからこそ様々な事を乗り越えていくことができます。土台となる場所を地域の中に作ることで、孤立することなく地域での生活を過ごしていくと考えていますし、むかえてくださる家族が増えていくことで社会の温かな眼差しが広がっていくことも期待しています。

妊産婦ホストファミリーの流れ

- *研修をうけていただき、登録
- *妊娠中からホームでの顔合わせ等によりマッチング
- *産後より支援開始
- 支援のかたちは皆さんができるかたちで実施をしていただけたらと思います。
例えば...
週末に一緒に食事をする、お出かけと一緒にする、少し赤ちゃんを預かって休んでもらうなど、娘親子の支援をイメージしてもらえたたらと思います。

2023年度会計報告

正味財産増減計算書(2023年4月～2024年3月)

[単位:円]

I 一般正味財産増減の部	事業会計	法人会計	合計
1. 経常増減の部			
経常収益			
受取会費			
一般会員受取会費	690,029	690,029	1,380,058
賛助会員受取会費	148,500	148,500	297,000
受取寄付金・補助金	27,651,057		27,651,057
委託料	47,103,000		47,103,000
事業収益	4,135,839		4,135,839
一般正味財産振替額	3,042,599	519,986	3,562,585
雑収益	278,468	1,238,894	1,517,362
経常収益計	83,049,492	2,597,409	85,646,901
経常費用			0
事業費	83,090,122		83,090,122
管理費	353,295	5,409,059	5,762,354
経常費用計	83,443,417	5,409,509	88,852,476
評価損益等調整前当期経常増減額	-393,925	-2,811,650	-3,205,575
当期一般正味財産増減額			-3,205,575
一般正味財産期首残高			8,223,142
一般正味財産期末残高			5,017,567
II 指定正味財産増減の部			0
受取寄付金・会費・補助金・委託金	40,333,076		40,333,076
一般正味財産振替額	-3,042,599	-519,986	-3,562,585
当期指定正味財産増減額	37,290,477	-519,986	36,770,491
指定正味財産期首残高			73,576,793
指定正味財産期末残高			110,347,284
III 正味財産未残高			115,364,851

小さないのちのドアは、皆様からの寄付金で運営しています。どうぞ一緒に、小さないのちのドアを支えてください。ご支援いただいた寄付は、以下の用途に活用させていただきます。

- 相談者のための医療費
- 来所のための交通費
- 利用者の衛生用品の購入
- マタニティホームの光熱費や食費
- セキュリティ関係
- 当直や給仕のための入件費
- 必要物資 etc...



小さないのちのドアへのご寄付は
税制優遇あり

小さないのちのドアは、社会的信頼度の高い公益社団法人と認定され、個人・法人共に税制上の優遇措置を受けることが可能となりました。法人(民間企業等)から、小さないのちのドアへ支出された寄付金について、所得金額や資本金額等から算出される一定額を限度として、損金算入すること(損金算入の分だけ、課税対象額が減少)ができます。個人の場合も、確定申告を行うことで寄付金控除を受けることができます。

【例】10,000円を寄付した場合(個人)

計算式 (寄付金 - 2,000円) × 40%
 寄付 10,000円 → 小さないのちのドア
 3,200円 還付
 税務署
 3,200円の還付を受けることができます
 ※金額は寄付金額などにより異なります。

ご支援のお願い

サポートの種類

1. 一般会員 一口(個人) 10,000円/年 (団体) 100,000円/年
2. 賛助会員 一口(個人) 3,000円/年 (団体) 30,000円/年
3. マンスリーサポーターになる: 任意の金額/月
4. 寄付をする
5. ふるさと納税で寄付をする ※詳細はホームページをご覧ください
6. ボランティアに参加する ※詳細は事務局へ
7. 里親希望(特別養子縁組や里親制度をご紹介) ※詳細は事務局へ



入金先

1. オンライン決済(クレジットカード決済)

Square(スクエア)・Syncable(シンカブル)・READYFOR(レディフォーム)でのクレジット決済が可能です。
<https://door.or.jp/support>



2. 銀行振り込み

金融機関	三井住友銀行	ゆうちょ銀行
支店名	鈴蘭台支店(348)	099(ゼロ九九)店
種類・番号	普通5062338	当座0333599
名義	公社)小さないのちのドア	小さないのちのドア

※三井住友銀行にご入金くださった方は、電話・FAX・メール、または、小さないのちのドア宛にお名前とご住所をお知らせください。ご連絡がないため、ご報告やご挨拶ができないままの方々がおられます。特に領収証が必要な方は、必ず連絡先をお知らせください。

一般会員やマンスリーサポーターとして支えてくださる方には活動報告書(1年発行)を、ご支援くださった方には、ニュースレター(1~2年発行)をお送りいたします。
 また、ニュースレターにはご支援くださった方々のお名前を掲載させていただきます。匿名希望の方は、お知らせください。

3. 郵便振替・自動送金

記号 00900-9
 番号 333599
 加入者名 小さないのちのドア

4. 現金書留

下記、事務局宛にお願いします。
公益社団法人小さないのちのドア事務局
兵庫県神戸市北区ひよどり台2-30-6
TEL: 078-743-2405



5. Softbankつながる募金

募金画面から寄付金額を選択し、ソフトバンクのスマートフォンをご利用の場合は利用料金の支払いと一緒に寄付できるほか、ソフトバンクポイントやクレジットカード、Yahoo!ネット募金でも寄付が可能です。



6. 買取大吉モノ募金

家にある使わなくなったものを出張買取でお金に変えて寄付することができます。





公益社団法人 小さないのちのドア

<https://door.or.jp>

〒651-1123 兵庫県神戸市北区ひよどり台2-30-6

TEL/FAX : 078-743-2405

Email : office@door.or.jp

2024年11月発行

SNSでも情報発信中!

